

学校評価シート				資料等			
東海市立名和小学校			○ 教育目標		・ 知・徳・体の調和と統一のとれた、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成		
住所 電話番号 校長名	東海市名和町山東10番地 052-603-1151 児童 808名 花井 浩美 32学級（内 特支6）	○ 特色ある活動	・ 地域の祭りの象徴的な出し物として親しまれている「猩猩」について学び、地元の文化を知ったうえで名和小学校独自の「猩猩」文化を「名和つ子猩猩」として創造して、全国に発信し、未来へと引き継いでいく。				
		○ 地域の特徴	・ 古くからの住宅と新興住宅が混合する地域で、コミュニティ活動は充実している。				
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校支援協議会評価 【実施日】令和6年2月28日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)	
知 確かな学力を育む	基礎的な学力の定着と主体的に学ぶ態度の育成を図り、「わかる・できる・楽しい授業」を実践するとともに、専科担当教員の活用や学年間で交換授業を行うことで、教材研究を充実させ、質の高い、魅力ある授業づくりに努める。	(児童04) 先生は熱心に教えてくれる。 (児童16) 授業は楽しい。 (児童17) 授業の内容が分かる。 (児童18) 授業中、自分の考えや意見を発表している。 (児童19) 授業中、友達や先生の話をしっかり聞いている。 (児童20) 宿題は、きちんとやっている。 (保護者02) 学校は、子どもたちの学力向上に努めている。 (保護者11) 先生(担任・教科担任)は、分かりやすい授業をしている。 (教師16) 分かる授業を実践している。 (教師17) 楽しい授業を実践している。 (教師19) 子どもは、授業の内容を理解している。 (教師22) 基礎学力の定着を目指した指導を行っている。	()の数字は昨年度との比較 ・「授業は楽しい」(8.1%増)「授業の内容が分かる」(1.1%増)「授業中、友達や先生の話をしっかり聞いている」(4.4%増)と答えた児童が増加した。しかし、「授業中、自分の考えや意見を発表している」(0.2%減)「宿題は、きちんとやっている」(1.1%減)は減少した。 ・「学校は、子どもたちの学力向上に努めている」(1.5%増)「先生(担任・教科担任)は、分かりやすい授業をしている」(9.8%)と答えた保護者が増加した。 ・「分かる授業を実践している」(6.1%増)「楽しい授業を実践している」(3.8%増)「子どもは、授業の内容を理解している」(4.8%増)と答えた教師が増加した。	○教師個々が日々研鑽したことを生かし、児童の実態に応じた指導にあたることで、児童の学習意欲向上や学力向上につながる。教師が「わかる・できる・楽しい授業」を実践するために、タブレットを活用し分かりやすく視覚化したり、ドリル学習をしたりすることで児童の基礎学力向上を目指す。 ○自分の考えや意見を安心して言えるための雰囲気づくりや、授業に「振り返り活動」を取り入れることで自己を見つめたり、振り返りが生かされる場面を作ったりして、自信をもった発言ができるようにする。 ○授業力向上を目指す効果的な校内研修を計画し、実行する。	○教師アンケートで無効があるのが気になる。どういう意味なのか。 ○主に高学年で、教科担任制で授業を行っているが、いろんな先生が入ることで担任だけでなく、多くの目で子どもたちを見ることができる。また、子どもたちもいろんな大人の考え方や価値観に触れるため成長できる。 ○タブレット学習が進んでいるが、ドリルパークなど基礎基本の習得に効果があると感じている。一方、板書を写したりノートに書く作業が減ったりしたため、字を丁寧に書くとか昔のように書いて覚えるということがなくなってきて心配している。	○授業者が、授業の中に「振り返り」の場面を設定する。ノートやタブレット端末、グループ学習を活用し、自分の考えや意見を整理させたり、自信をもって発言できるように指導する。 ○教務主任が、NRTやCRT、全国学力学習状況調査を分析し、各担任が苦手な教科や分野を、名和つ子タイム等を活用して指導する。 ○教頭が、学校評価アンケートの結果を分析して、学年主任や学習指導部、現職推進委員と共有して課題の具体策を考える。 ○教頭が、全職員に対して多種多様な研修会等のアナウンスを行い、指導力向上を目指す。	
	各種研修会への参加や校内研修等を通して、教師個々の授業力の向上に努める。	(教師07) 発達障害について理解を深める努力をしている。 (教師23) 各種研修会に参加するなど、力量向上に努めている。 (教師25) 家庭での学習が定着できるように手だてを講じている。	()の数字は昨年度との比較 ・「発達障害について理解を深める努力をしている」(3.3%増)「家庭での学習が定着できるように手だてを講じている」(16.1%増)と答えた教師が増加した。しかし、「各種研修会に参加するなど、力量向上に努めている」(1.7%減)は減少した。				
徳 豊かな人間性を養う	特別な教科道徳の研究を全校体制で推進し、思いやりの心を育てる。 いじめや不登校問題に対し、予防対策・早期発見・適切な対応に全力を尽くす。	(児童12) 他の人に悪口を言ったりいやなことをしたりしない。 (児童13) 他の人から悪口を言われたりいやなことをされたりしない。 (児童15) 友達と仲よくしている。 (保護者12) 学校は、いじめのない学級・学年づくりに取り組んでいる。 (教師08) いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。 (教師20) 道徳の時間や体験活動を通して、心を育てる指導に努めている。 (地域07) 子どもたちがよくないことをしているのを見かけたら注意する。 (教育活動) 道徳等の授業実践・反省、授業研究	()の数字は昨年度との比較 ・「他の人に悪口を言ったりいやなことをしたりしない」(4.5%増)と答えた児童が増加した。しかし、「他の人から悪口を言われたりいやなことをされたりしない」(4.5%減)「友達と仲よくしている」(0.6%減)は減少した。 ・「学校は、いじめのない学級・学年づくりに取り組んでいる」(2.5%増)と答えた保護者が増加した。 ・「道徳の時間や体験活動を通して、心を育てる指導に努めている」(3.5%)と答えた教師が減少した。	○いじめ問題は、本校においても重要な課題として取り組んでいる。教育活動全体で、いじめをしない・させない学校づくりを進める。アンケート等から得られた情報の「報・連・相」を確実にに行い組織的に対応する。教師が児童との関わりを多くし、複数の教師が対応にあたることで、必要に応じて外部機関と連携していじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ○道徳の時間を担任だけでなく、必要に応じて担任をローテーションして行うなど、自分の担当クラスだけでなく、他クラスでも実施することで学年の児童をより多くの教師で見守っていく。 ○「名和つ子猩猩」は名和小学校の特色のある活動の一つである。低学年の段階から意図的に「名和つ子猩猩」に触れさせ、名和小学校の伝統を継承していく。また、につぼんど真ん中祭りに参加する場合は、保護者の協力を仰ぎながら、児童、教師、保護者が一体となって盛り上げていく。	○教師は「いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」に90.7%「あてはまる」「ややあてはまる」と答えているのに対し、児童は「他の人から悪口を言われたりいやなことをされたりしない」の割合が少ない。教師の取組に対する児童の実態との乖離が気になる。 ○いろいろな子どもがおり、一人一人の性格がある中、画一的な指導も大切だが、個に応じた声かけや寄り添った指導も大切である。 ○近年、誉めて伸ばすことが言われているが、社会の中で生きる上で、「ダメなことはダメ」だと叱れる大人であってほしい。 ○名和つ子猩猩に積極的に参加する児童が減ってきているので、様々な機会を捉えて参加を呼びかけるとよい。 ○につぼんど真ん中祭り等のイベントに参加することは、子どもたちの活躍する場が広がるので続けるとよい。	○全職員がいじめは絶対に許さないという意識をもち、担任だけで抱えこむことなく、学年や指導部会等と情報共有や相談体制の充実を図る。また、児童一人一人の小さなサインを見逃すことなく、全職員で見守りを行う。 ○いじめが起こった場合は、生徒指導担当が校内緊急対応チームを速やかに招集し、事実確認と問題の対応を協議し、被害者に寄り添いながら解決に努める。解決に向かった場合は、最低3か月の見守りを行い、本人と保護者にいじめがないことを確認するまで徹底して寄り添う。 ○教頭がスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、市こども課、その他外部機関と全職員とをつなぐパイプ役となり、問題の未然防止や問題が生じたときの対応に迅速にあたるように調整する。 ○不登校に対して、全職員が、児童の様子や変化を注視し、未然防止を意識した対応を行う。特に、前兆のある児童に対しては、保護者と連絡をとり情報共有したり、必要に応じてSSWを交えたケース会議を開いたりして対応を考えていく。 ○教師全員が、様々な教育活動の中で名和つ子猩猩に触れる機会をつくり、児童の猩猩への関心を高めさせる。教頭が、地域に対して回覧板等を活用して紹介する。	
	児童会活動やベア活動、奉仕的活動の充実を図り、心豊かな児童を育てる。	(児童01) 毎日の学校生活は、楽しい。 (児童26) ベア活動は楽しい。 (教師21) 子どもがよくいところを認め、褒めている。 (教育活動) 児童会活動) 児童会活動計画・実践・反省 (奉仕的活動) 児童会活動) 奉仕的活動計画・実践・反省	児童会活動は、児童の意見を尊重しながら、募金活動、保健委員による健康面への啓発活動、清掃委員による黙々清掃などを行った。また、ベアあそびやベアによるなわとび集会の実施により、「毎日の学校生活は、楽しい」(0.1%)「ベア活動は楽しい」(3.0%)と答えた児童が増加した。				
	児童の仲間意識を高め、活気ある学校づくりを推進するために「名和つ子猩猩」の活動充実を図る。	(児童02) 名和小学校が好きである。 (児童23) 「名和つ子猩猩」の活動に積極的に参加している。 (保護者18) 学校は、「名和つ子猩猩」の活動に、積極的に取り組んでいる。 (教師03) 「名和つ子猩猩」の活動を意識した指導をしている。 (地域09) 名和小学校の「名和つ子猩猩」の活動について知っている。	()の数字は昨年度との比較 につぼんど真ん中祭り、市子ども芸能発表会、上名和公民館祭りで「名和つ子猩猩」を披露した。 ・『「名和つ子猩猩」の活動に積極的に参加している』(10.0%減)と答えた児童が減少した。 ・「学校は、「名和つ子猩猩」の活動に、積極的に取り組んでいる」(11.8%)と答えた保護者が減少した。				
体 健康な心と身体を育む	基本的生活習慣(あいさつ)の定着と規範意識(自己有用感)の確立と、児童が「ほっとできる居場所」と感じられる学校・学級づくりに努める。	(児童01) 毎日の学校生活は、楽しい。 (児童02) 名和小学校が好きである。 (児童03) わたしは、学校のきまりを守って学校生活をしている。 (児童08) 忘れ物をしないように気を付けている。 (児童09) 時間を守って生活している。 (児童10) よい姿勢で学習している。 (児童11) 友達や先生にあいさつしている。 (児童21) 朝ごはんは、きちんと食べている。 (児童22) 早寝早起きをしている。 (保護者16) あなたの子どもは、社会のルールを守っている。 (保護者10) 先生は、教育活動全般に対して熱心に指導にあたっている。 (教師09) 「早寝、早起き、朝ごはん」の定着に向けた指導をしている。 (教師08) 先生は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。 (教師04) たよりなどを通して積極的に学校の様子を知らせている。 (地域06) 地域で見る名和小学校の子どもたちは、社会のルールを守っている。	()の数字は昨年度との比較 ・「忘れ物をしないように気を付けている」(2.7%増)「よい姿勢で学習している」(4.8%増)「友達や先生にあいさつしている」(4.3%)「早寝早起きをしている」(6.2%)と答えた児童が増加した。しかし、「わたしは、学校のきまりを守って学校生活をしている」(1.2%減)は減少した。基本的生活習慣の定着は身についてきたが、規範意識の低さが見られた。 ・一方、「あなたの子どもは、社会のルールを守っている」(1.8%増)と答えた保護者、「子どもたちがルールを守って学校生活を送るよう指導をしている」(0.3%増)と答えた教師が増加した。	○早寝・早起きについては、保護者の協力も得る必要がある。教師が校内での始業・終業のメリハリをつける、忘れ物が常態化しないような指導も継続して行う。 ○登下校時の交通マナー、公共の場でのルールを守る指導を家庭や地域と協力して行っていく。 ○学校保健委員会等で専門的な立場からの講話や、委員会の児童による主体的な活動を促し、問題意識をもたせ、基本的生活習慣の定着をはかる。小学校期に運動する楽しさを身に付けることが生涯スポーツの基盤となり、健康づくりへとつながる。放課遊びを推奨したり、体育科での運動量を多くしたりして、体力向上に努める。	○地域で立哨しているが、児童にあいさつをしても返ってくるのが少ない。返してくれるまで粘り強くあいさつを続けるが、そもそも知らない人からの声掛けに警戒感がある世の中であるため難しさを感じる。 ○学力向上も当然大事だが、各クラスの色や自分たちで学校やクラスを動かす、楽しむという思いを大切にして、笑顔あふれる学校になってもらいたい。そういう経験が、自己有用感を高めていくとを感じる。 ○規範意識の向上は児童、学校、家庭が一つになって取り組む必要がある。	○教師全員が、なぜルールが必要なのかを児童に考えさせ、自ら進んできまりを守ろうとする児童の育成を目指す。 ○教師全員で、外遊びを奨励したり、体育科で運動量を十分確保する活動を取り入れたりして体力向上に努める。また、学習指導部員が中心となって、運動機会を確保する方法を検討する。 ○担任による朝の健康チェックを通して、児童の様子を確実に把握するとともに、必要に応じて養護教諭や管理職と情報交換を行い健康管理に努める。また、養護教諭が作成する「ほけんだより」で基本的生活習慣の定着を啓発したり家庭での協力をお願いしたりする。	
	地域連携 信頼される学校をつくる	ホームページや学校だよりの充実を図り、保護者・地域に情報を発信する。	(保護者03) 学校は、保護者が子どもの活動を参観する機会をよく設けている。 (保護者07) 学校から出される「猩猩だより」「学年だより」やホームページなどには、保護者の知りたい情報が盛り込まれている。 (保護者08) 先生は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。 (教師04) たよりなどを通して積極的に学校の様子を知らせている。 (地域04) 学校からのたよりやホームページなどにより、学校の様子が分かる。	・ブログ「名和小学校の日記」を掲載し、学校の様子を毎日発信した。また、学校だより「猩猩だより」の充実にも努め、コミュニティの回覧板を活用して、情報を発信したことで、「学校からのたよりやホームページなどにより、学校の様子が分かる」と回答した地域の方が微増した。 ・学校から出される「猩猩だより」「学年だより」やホームページなどには、保護者の知りたい情報が盛り込まれていると答えた保護者は0.2%減少した。逆に、「家庭へきめ細やかな連絡をしている」と答えた保護者は、5.3%増加した。	○学校の様子はブログで毎日知らせている。児童や保護者からのアクセス数も増え、関心は高い。今後も、保護者の知りたい情報を考慮しながら、積極的に発信していく。 ○学校だよりは今後も継続しコミュニティの協力を得て、回覧板等で地域に回覧していく。 ○地域を盛り上げるために、コミュニティや社会教育施設のイベント等に協力し、地域と一緒にあって、児童の健やかな成長を見守りたい。 ○教師の地域行事への参加は、働き方改革の問題もあるが、「地域の学校」として、今後も無理のない範囲で参加を促す。	○ブログが毎日更新されており、それを見ながら子どもとの会話を楽しんでいるので、大変だと思いが続けたほしい。 ○ブログが毎日更新されたり、学校だよりや学年だよりがeメッセージで発信されるようになったりしたことでホームページを見る機会が減った。とはいえず、学校の基本情報や感染症の治癒証明書のダウンロード版が掲載されているので、必要性は感じている。 ○地域の方への情報発信は今後も名和コミュニティを通して回覧板等をお願いしたい。 ○地域の思いとしては、情報を待つのではなく、自ら取りに行くことが必要だと感じている。	○職員が、ブログや学校だよりを通して、積極的に学校の様子を保護者や地域への発信を継続する。また、教頭がコミュニティの会に参加して、学校の様子を紹介したり学校への協力を依頼したりする。 ○教頭が、PTAや地域の声を集め、保護者や地域が求めている情報を学校だよりやブログの内容に反映させる。 ○教師が無理のない範囲で地域行事に参加したり、保護者や地域住民が気軽に学校行事に参加したりと相互交流が円滑に進められるように教頭が中心となって調整する。
	学校支援協議会との連携を強化し、地域・保護者とのつながりを一層深める。	(児童25) 名和コミ・子ども会・児童館などの地域の行事に参加している。 (保護者20) あなたは、子どもを地域の行事に積極的に参加させている。 (教師05) 保護者の願いや声を聞いて指導に生かしている。 (教師29) 地域の行事等に参加したり、顔を出したりしている。 (地域03) 名和小学校は、家庭や地域の願いや声を聞いてくれている。 (地域08) 名和小学校は、地域の活動や行事によく協力している。 (地域10) 学校行事で地域が協力できることがもっとある。	・児童、教師ともに地域の行事への参加率は37%である。地域の方で「名和小学校は、地域の活動や行事によく協力している」と答えたのは56%、「学校行事で地域が協力できることがもっとある」と答えている割合は62%である。				